

様式1 平成25年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	白川町	学校名	白川町立佐見小学校			
校長名	小田 松尚	対象学年	全学年	人数	47名	
活動名	ふるさと学習		時間数	42時間	継続年数	15年
題材	① 自然環境（山野・河川） [佐見川観察・源流登山・干潟観察] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [] ④ 地場産業（農業） [陶芸体験、茶の湯体験 [米作り・茶摘み・大豆栽培] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [佐見っ子まつり集会]					
複数年継続するための工夫改善	○専門的な技能・技術の指導が必要なので、地域講師及び専門家を依頼している。講師料の他に体験料、入館料が必要であるので、白川町「特色ある教育活動推進事業」の助成を受け予算を確保している。また、岐阜県「森と水の環境教育支援事業」白川町「緑化活動推進事業」の支援も受けている。 ○学校行事及び総合的な学習の時間を見直し、児童への負担を軽減しながら活動のねらいが達成できるように、学期毎に評価と改善を実施している。					

1 ねらい

- (1) 「つながる 山・川・海」・・・ふるさと佐見の自然の豊かさに着目し、「つながる山・川・海」をテーマに、源流の佐見地域の山・川、そして最下流の海とをつなげる活動を通して、佐見の環境の素晴らしさを実感させ、自然を守り育てていく心情や態度を育てる。
- (2) 「おいしさいっぱい さみ小農園」・・・全校児童による栽培を保護者及び地域人材（特に高齢者）を講師として実施し勤労体験を行うとともに、地場産業について基本的知識を得ることでふるさとへの愛着心を育てる。また、地域の方々とのおふれあいを大切にして「佐見っ子まつり（収穫祭）」を開催し、収穫への感謝とともに、お世話になった方へ感謝の気持ちを「おもてなし」という行動で心豊かに表すことを学ばせる。

2 活動の概要

- (1) 「つながる 山・川・海」の学習について
 - ・地域講師のガイドで佐見川の源流である尾城山（標高1,133m）に全校で登山をしている。水が湧き出る様子を観察し、水源が豊かな森に支えられていることを実感している。
 - ・校区の佐見川では、河川水泳（6月）、佐見川峡キャンプ（7月）、5年生による生物調査・水質検査を行っている。佐見川でのキャンプは、ペットボトルで製作したイカダを使った川遊びを行い、清流の素晴らしさを満喫している。一方、「森と水の環境教育支援事業」による講師を招聘した調査では、天然記念物のネコギギなども数多く見つけることができ、環境保全の大切さを実感している。また、漁協の協力で「釣り教室」「アマゴの放流」なども随時行っている。
 - ・中流域の木曽川はゴムボートによるラフティング（美濃加茂市→犬山市）を行い、水量や水質の違いを肌で感じ取っている。
 - ・下流域は名古屋市の藤前干潟において生物や野鳥の観察を行っている。最上流から河口までの観察を通して、水源の里に住むことの喜びを感じるとともに、一つながりの水の流れが生き物のくらしに密接に関係していることを感じ環境保全への意識を高めることにつながっている。
- (2) 「おいしさいっぱい さみ小農園」
 - ・全校でのモチ米栽培、中学年での大豆栽培と豆腐づくり、茶摘みと製茶、低学年でのサツマイモづくりを行っている。大豆、お茶の栽培は地域を代表する地場産業で、工場の見学やインタビューなどを通して、ふるさとを総合的に学んでいる。
 - ・モチ米栽培は、田植え、草引き、案山子づくり、稲刈り、脱穀、精米、餅つきまでの一連の作業を体験している。この活動を通して地域の方々と触れ合うとともに、自然の中で生きる素晴らしさを体感している。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- ・できるだけ地元の講師に指導をお願いしている。11月には収穫祭である「佐見っ子祭まつり」を行い、収穫したモチ米を使った餅つきと豚汁の会食をしながら地域の方々や保護者と交流し、収穫の喜びを分かち合っている。また、公民館まつりや青少年育成の集いなどの地域の行事に進んで参加し、学習の成果を発表している。
- ・25年度は、6年生が地域を紹介するCM（DVD）を制作した。地域の行事での発表やケーブルテレビでの放映を通して情報発信をしている。

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

- ・環境への関心が高まり、身近な生き物と親しむ児童が増えるとともに、汚れた水を流さないなどの実践的行動をとる児童が見られるようになった。
- ・人前で活躍する機会が多くなり、自信を持って発表したり、自分の言葉で感想を述べたりするなどたくましさを感じられるようになった。